

(様式1)

自 己 評 価 表

学校名 愛媛県立八幡浜工業高等学校

学校番号 35

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点努力目標	基礎・基本の定着と、意欲を持って心豊かに生きる生徒の育成 『思いやる心 自律の心 挑戦する心』 『ものづくりから人づくり・夢づくり、安心・安全で信頼される学校づくり』 1 確かな学力を身に付けさせる学習指導の推進 2 一人一人を見つめた温かい生活指導の推進 3 個性豊かな人間性の育成と特別活動の充実 4 職業観・勤労観の育成と実践的キャリア教育の推進 5 地域を愛し行動できる人間の育成(ボランティア活動の推進)
------	---	--------	---

領域	評価項目	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校 経営	教育活動の公開と情報発信	B	各種「たより」を毎月遅れることなく家庭へ持ち帰らせ、掲示板への張り出しもできている。 各種「たより」や学校行事の更新等ホームページの内容を充実させることができた。 (八工だより発行・掲示板掲示回数) 各 A:12回 (配布物家庭持帰り率) A:85%	これまでと同様に保護者に毎月初めに「たより」が届くことを知っていたら、届かない場合は子どもに催促していただくように今後とも願います。生徒には、保護者に必ず渡すように今後も指導を継続していく。また、次年度はSNSを活用して直接保護者に発信できるように工夫したい。 ホームページの内容や更新を充実させ、情報を発信していくように努める。
	保護者の意見反映	-	コロナ感染防止のためPTA総会等は実施せず。	コロナ禍が落ち着けばPTA総会等を実施し、その中で保護者の意見を反映させたい。
	図書館環境の整備と充実	B	委員による読書啓発活動を行い、新刊図書の購入や「図書館通信」の発行も例年通り行った。 年間一人当たりの図書貸出し冊数は減っているが、年度末には前年度程度になる見込みである。図書館利用者数は減少し、来館する生徒も固定化している。 (図書貸出冊数年間1人当たり) B:3.4冊 (図書室利用者数1日当たり) C:20人	ICT機器の充実により、授業で図書館を活用する機会が少なくなっているため、Wi-Fi設備を充実させ、教科との連携を図りながら、調べ学習等で活用できるようにする。 来館を促す広報活動を続けるとともに、図書の購入や企画等で活性化を図る。
	教職員の業務改善	B	部活動等の関係で特定の教員の時間外勤務が多くなっているが、ワークライフバランスがとれていると感じる教職員の割合は低くないので概ね良好と判断できる。 (時間外勤務時間80時間(月)以下の教職員の割合) B:88.6% (有休年10日以上の取得率) E:57% (ワーク・ライフ・バランスがとれていると感じる教職員の割合) B:80%	有休の取得については、部活動を始め担当している校務分掌等の兼ね合いから、取りづらい教職員がいるように思われる。休暇の取りやすい配置の検討や、逐次取得の呼びかけを継続していきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

自己評価表

学 習	<p>教科指導の充実</p>	<p>生徒による授業評価を基に教科指導の課題について教科会で検討し、授業改善を図る。相互授業研修期間を含め、校外で一人年間5回以上、授業参観や教科の研修を行い、授業力向上に努める。</p> <p>(授業の理解度(ポイント)) A:3.0以上 B:2.9~2.7人 C:2.6~2.0人 D:1.9~1.3人 E:1.2~1.0 (相互授業研修参観回数(年)) A:5回以上 B:4~3回 C:2回 D:1回 E:0回</p>	<p>B</p>	<p>教育課程について、職員・保護者ともに一定の評価を得ている。授業改善については、コロナ対応もあり、年間相互授業研修参加回数は目標を下回った。授業理解度(生徒による授業評価)の目標は達成した。</p> <p>(授業の理解度(ポイント)) A:3.2 (相互授業研修参観回数(年)) B:4.5回</p>	<p>令和4年度から始まる新教育課程については編成済みである。来年度以降もICT教育を含めた魅力ある教育課程を構築したい。授業改善については、校内研修や教科会等の在り方を検討して、授業改善につながる学習評価となるよう努めたい。コロナ対応にもなるICT・オンライン教育も研究・実践していきたい。</p>
	<p>指導</p>	<p>基礎学力の向上</p>	<p>B</p>	<p>平日1時間以上の家庭学習が定着できている生徒や、考査発表後に多くの学習時間が確保できている生徒もいる。その一方で、学習時間が30分未満の生徒も増えている。</p> <p>(家庭学習時間・平日1日当たり) B:57分 (家庭学習時間・テスト期間1日当たり) B:2時間39分</p>	<p>エスタブリッシュメントテストの前日は学習時間が増えるなど、家庭学習時間の定着に効果が見られるので、今後も工夫を加えながら定着させたい。また、資格検定取得に向けた取組も、各教科と連携し継続したい。</p>
工 業	<p>実践的技術者としての知識・技術</p>	<p>各種資格取得・検定試験合格個数(3年間)6個以上を目指す。 A:6.0個以上 B:5.9~4.0個 C:3.9~2.0個 D:1.9~1.0個 E:1.0個未満 ジュニアマイスターの認定(ゴールド・シルバー15人以上)を目指す。</p>	<p>C</p>	<p>各種資格取得・検定試験合格個数は5.4個で、目標は達成できなかった。ジュニアマイスター認定はゴールドが10名、シルバーが1名、合計11名であった。</p>	<p>各種資格取得・検定試験合格個数は、1、2年で多く取得するため、コロナが落ち着いて試験が実施されれば、数字的には改善できると思われる。しかしながら、入学者数が大幅に減っている現状において、ジュニアマイスター15人以上の達成は入学者数が増えない限り難しい。</p>
	<p>教育</p>	<p>ものづくりの推進</p>	<p>B</p>	<p>高校生ものづくりコンテスト愛媛県大会において、測量、電気工部門でそれぞれ3位入賞。中学生対象のものづくり教室・小学生対象のエネルギー教室ともに予定通り実施し、好評であった。インターンシップ発表会・課題研究発表会ともに各科で実施予定である。</p> <p>(ものづくりに意欲的に取り組めた生徒) A:95% (公開講座・出前授業等参加人数) C:72人</p>	<p>高校生ものづくりコンテストへの参加生徒の確保がままならなくなっており、ものづくりに興味を持ち、コンテストへ参加する生徒をつつていかなければならない。ものづくりに関する各種行事においても参加生徒が不足しており、ぎりぎりでも実施しているため、参加できる生徒の確保が急務である。</p>
特 別	<p>ボランティア活動の推進</p>	<p>各教室のボランティア活動関係の掲示板を充実させ、参加する意義を教えるとともに意識の啓発にも努め意欲的な参加を目指す。(ボランティア活動等の自主的参加1人当たりの回数) A:1回以上 B:~3/4回 C:~1/2回 D:~1/4回 E:1/4回未満</p>	<p>C</p>	<p>昨年に続き今年もコロナ禍によりボランティア活動に気軽に参加できる環境では無かったが、それでも延べ80名の生徒が参加したことは、高い意識を持った生徒が多数いることを示している。</p> <p>(ボランティア活動等の自主的参加1人当たりの回数) C:1/2回 (0.41回)</p>	<p>積極的に啓発を行うことで、コロナ禍が収まり気軽に参加できる環境となれば、目標値もクリアできると考えられる。</p>
	<p>活動</p>	<p>学校行事の充実</p>	<p>B</p>	<p>コロナ禍により外部への公開や招待ができなかった1年であったが、自発的に企画運営にあたるなど活発な活動を行った。</p> <p>(生徒会委員会開催数(年)) A:10回</p>	<p>2年連続で外部と交流を持つ行事が実施できなかったことから、ノウハウをなくさないように計画の段階では公開を念頭にいれて行わせた。</p>

自己評価表

特別活動	部活動の充実	生徒自ら意欲的に取り組めるような魅力ある部活動にし、部活動加入率95%以上を目指す。 (部活動の加入率) A:95%以上 B:94~80% C:79~65% D:64~50% E:50%未満	A	今年度、運動部142名、文化部71名延べ213名が何らかの部活動に加入し活動している。 加入率が100%でないのは1名未加入者がいるためである。 レスリングやWROの優勝など、各部良い成果を残している。 (部活動の加入率) A:99%	1名未加入者が出てしまったことから来年は全員加入を目指したい。 少ない生徒数の中でもやりがいのある部活動となるようバックアップに努めていきたい。
生徒	基本的生活習慣の確立	保護者との連携を密にし、欠席・遅刻・早退ゼロを目指す。 頭服指導を徹底し、高校生らしい身だしなみを心がけさせる。 (遅刻者数(年延数)) A:5人10回以上 B:10人20回 C:20人40回 D:30人50回 E:40人60回 (早退者数(年延数)) A:1人3回 B:3人5回 C:5人10回 D:7人15回 E:10人20回 (家庭訪問実施率・頭服指導の合格率) 各 A:75%以上 B:74~60% C:59~45% D:44~30% E:30%未満	B	遅刻数は、1年6人15回、2年10人18回、3年7人10回である。1、2年生の遅刻数が多いのが大半は通院、体調不良である。3年生は寝坊が多く、基本的生活習慣が確立されていないと考える。早退する生徒は通院以外減少した。頭髪服装については、1年生にルールを理解させるまで時間がかかるが、上級生になるほど合格率は高くなり、校内での大きな乱れはなく一定の成果が見られる。 (遅刻者数(年延数)) C:23人43回 (早退者数(年延数)) B:2人9回 (家庭訪問実施率) 実施せず (頭服指導の合格率) 各 A:90.3%	今後も、ホームルーム担任を中心とした個別指導と5分前登校の奨励を通して、生徒に基本的生活習慣の確立に向けて自覚を促していきたい。また、入室届・早退処理の徹底を図りたい。更に家庭との連携を密にし、基本的生活習慣が身に付くよう保護者に協力をお願いしていきたい。
指導	規範意識と社会性の醸成	交通安全教室、非行防止教室等を通して生徒の規範意識を育成する。 校門指導、教科指導、部活動指導を通して挨拶を励行させる。 (交通事故発生件数(年)) A:0件 B:1件 C:2件 D:3件 E:4件 (特別指導以上の問題行動発生率(年)) A:0% B:0.50% C:1% D:1.5% E:2% (挨拶のできる生徒) A:75%以上 B:74~60% C:59~45% D:44~30% E:30%未満	B	挨拶は、教職員・生徒の評価は高く、校門指導、教科・部活動での指導の成果が現れているが、学校を離れるにつれ評価が下がっており、家庭での協力も必要であると考え。 交通ルール・マナー、ヘルメットの着用については、命にかかわる問題であるので100%を目指していきたい。 (交通事故発生件数(年)) B:1件 (特別指導以上の問題行動発生率(年)) C:1.0% (挨拶のできる生徒) A:98%	挨拶は、これまでの校門指導を中心とした挨拶運動を専門委員会や、保護者の協力を得ながら継続していきたい。 非行防止教室、全校集会等での指導を通して、規範意識の向上に努めたい。また、校門指導や登校指導を通してヘルメットの着用の重要性や交通安全意識を向上させたい。
人権	人権啓発の推進	「人権だより」、人権・同和教育ホームルーム活動や講演会などを通して人権尊重の意識を高める。 内容の充実した「人権だより」を年10回発行する。 (「人権だより」発行(年)) A:10回以上 B:9~7回 C:6~4回 D:3~1回 E:0回	A	「人権だより」の内容は、興味・関心を持って読めるよう工夫して作成し、また、人権集会の内容も同様に実施できた。ホームルーム活動も例年通り担任の先生に考えて実施できている。「人権だより」の発行回数は予定より1回少なかったが、年度末には目標を達成できた。 (「人権だより」発行(年)) A:10回	今後も新しい情報を取り入れながら、興味・関心を持って読めるような「人権だより」を作成する。 ホームルーム活動や人権集会、教職員研修会の内容も、常に新しいものを取り入れて実施する。
教育	いじめをなくする取組	いじめる生徒、いじめられる生徒ゼロを目指す。 いじめに関するアンケートを年2回実施し、教職員全員でいじめの防止および早期解決に取り組む。 (生徒の相談体制の充実度) A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:59%以下	B	いじめは0にはなっていない。アンケートでは、生徒は素直に記載してくれているので、その事案には素早く対応できた。アンケート後に起きて対応に苦慮した事例もあったが、関係教職員が協力して解決できた。 (生徒の相談体制の充実度) B:81%	今後も新しい情報を取り入れながら、興味・関心を持って読めるような「人権だより」を作成する。 ホームルーム活動や人権集会、教職員研修会の内容も、常に新しいものを取り入れて実施する。
進路指導	就職指導の充実	キャリア教育を充実させることにより、望ましい職業観・勤労観を育成する。 就職試験の1次合格率90%以上を目指す。 (就職試験の一次合格率) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満	B	各科・各学年における職場見学や3年生の就職応募前見学、合同企業説明会等の諸行事によって、生徒の職業観や勤労観の育成を図ることができた。 求人状況は良好で、生徒個々の希望に沿った就職内定を得ることができた。1次合格率は96.1%であった。 (就職試験の一次合格率) A:96%	今後も校内での進路情報をこまめに発信するほか、公的機関や行政の主催するガイダンスや企業説明会を積極的に活用し、生徒の職業理解を深め、進路選択の幅を広げていく。 生徒個々の能力や適性を見極めて企業とのマッチングを図り、離職率の低下に努める。

進路指導	進学指導の充実	生徒一人一人の希望に合わせた進路相談や進学情報の発信を積極的に、大学・専門学校などへの第1希望合格率90%以上を目指す。 (大学・専門学校などへの第1希望合格率) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満	A	オープンキャンパスへの参加や担任・部活動顧問との進路相談により志望校研究を行い、個々の生徒の希望に沿った進路を実現することができた。第1希望の学校への合格率は100%であった。 (大学・専門学校などへの第1希望合格率) A:100%	生徒の気持ちを尊重しつつ、なるべく早めに志望校や受験形態が決定し、余裕を持って受験対策を進められるよう、生徒・保護者に分かりやすい情報提供に努める。
学校保健	健康管理と保健指導の充実	健康診断結果の的確な把握と適切な指導を行うとともに、具体的な指導を計画し基本的な生活習慣の確立を図る。 「保健だより」を毎月1回発行する。 (保健だより発行回数) A:12~10回 B:9~7回 C:6~4回 D:3~1回 E:0回	B	自身の疾患についての理解を深めることや、学校生活で自分自身が注意すべき点について分かりやすく指導し、自己管理ができるように支援した。毎月の保健だよりは、最新の情報を、見やすく分かりやすい内容で作成した。 (保健だより発行回数) A:12回	毎日の健康観察から、学校生活を送るにあたり支障があるかどうか疾病をスクリーニングし健康状態を把握する。また、学校における健康課題を明らかにして健康教育に役立てる。コロナ禍においては、メンタル面の不調も深刻化しており、心身の訴えを表出できるよう配慮していきたい。
学校安全	安全意識の向上	様々な非常変災に対応できるよう、避難訓練を年3回実施することにより、生徒・教職員の安全に対する意識向上を図る。 (危機管理模擬訓練(年)) A:3回 B:2回 C:1回 D:-1回 E:0回 (予告なしの防災訓練(年)) A:1回以上 B:-1回 C:-1回 D:-1回 E:0回	A	本年度は(予告なしの防災訓練2回を含め)5回の防災訓練を実施した。予告なしの訓練でも生徒はしっかりと行動することができる等、生徒・教職員の安全に対する意識の向上が見られた。 (危機管理模擬訓練(年)) A:3回 (予告なしの防災訓練(年)) A:2回	緊張感を持って訓練を実施することにより、今後とも生徒・教職員の防災に対する意識向上を図る。
学校	校舎・校庭・教室の環境	校舎や校庭・教室の美化・整理整頓に努める。 (校舎・校庭・教室の環境整備度) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満	B	予算の関係で一部修繕できていない箇所はあるものの、概ね構内の美化・整理整頓に努めることができた。 (校舎・校庭・教室の環境整備度) B:88%	生徒が安全で安心した学校生活が遅れるよう、引き続き生徒と教職員全体で環境整備や美化に努めたい。
行政	丁寧な接遇の励行	丁寧な来客対応・電話対応に努める。 (丁寧な接遇の励行達成度) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満	B	学校外からの苦情等は特になく、丁寧な来客対応及び電話対応に努めることができた。 (丁寧な接遇の励行達成度) B:88%	保護者等相手の立場にたった丁寧な接遇を引き続き心がけたい。